

30年代ゼロで困るのは

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

葛西会長が日本の「エネルギー政策」、つまり原発ゼロに対して、またも大胆な発言をしました。その内容やJR東海労の考え方は、本部、新幹線地本の各情報で取り上げています。ここでは、その中では触れていない所を紹介します。

会長ご本人が書いたと思われるコラムに『ポヒュリズム（大衆迎合主義）に堕した政治家は国の針路を誤る。今日、「原発を廃止し、再生可能エネルギーで代替せよ」と叫んでいる運動家とそれに迎合している政治家は「必勝の信念と竹やりがあればアメリカの物量に勝てる」と叫んで国民を戦場に駆り立て、国を存亡の危機に立たせたかつての精神主義者に似ている。』と書いています。

葛西会長はなぜ、これ程までに原発稼働を求めるのでしょうか。当然リニアは原発を必要としているからですが、どうしても「30年代」原発ゼロでは困るのです。

それは、リニアの営業開始を2027年に東京都～名古屋市、2045年に東京都～大阪市の全線開業としています。合わせて国交省は、鉄道運行に伴う2030年の消費電力量を2010年比で2割削減目標を示しているからです。

これではリニアを開業しても、絶対的な電力不足でリニアを走らせることが出来ません。このままリニア計画を進めると逆に「日本経済の致命傷（5月産経新聞）」となり、そしてJR東海は間違いなく倒産し、社員は路頭に迷うこととなります。

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

70年ほど前の日本で、彼の精神主義者が、竹やりでアメリカに勝てる、と言ったかどうかは分かりません。しかし、愚かな戦争を経験したことは間違いありません。そして、原発ゼロを求める行動と声を「大衆」、「運動家」と切り捨て、そしてその声を聞こうとする政治家を「大衆迎合主義」と言ってしまふところは、国民や社員を自分の都合で上からしか見ない、判断しない葛西会長らしい表現です。

パブリックコメントで寄せられた多くの意見の、約9割が原発ゼロを訴えています。野田内閣は一旦「30年代の原発稼働ゼロ」目標を決定したにもかかわらず、国民の声を無視して「原発ゼロ」の閣議決定を見送りました。3.11の復興も進まないなか、原発なしでは実現しない無謀なりニアと共に路頭に迷わないために、**職場でも、原発ゼロ！ リニア建設反対！ と声を出しましょう**